常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅡ

令和３年６月１８日(金)
その２

◇ 35 年の時を経て　～写真で見る 本校の歴史　その❷～

校舎の移転新築は昭和 62 年 4 月。その 2 年前の昭和 60 年から校地造成工事は着手されたと記録にある。校地造成時の写真をご覧いただこう。

車両通行用の**朱色**の鉄橋。これが正門前に架かる「米山橋」の原型。その後、欄干を備え、コンクリートで補強されて、現在の姿に変わっていく。

よく見ると、鉄橋の手前に、それまで使われていた「木製の橋」が架かっているのが確認できる。

写真下部の横に走る**緑の帯**が青木川の土手との境である。現在の学校回りの車道や校門あたりは「棚田」があったことが分かる。

現在はほとんど見かけない常磐東の「田んぼ」だが、40 年ほど前までは、地形を利用した「棚田」で稲作が行われていたようだ。

「棚田」の上を走行するショベルカー。手前には前述の木製橋が見える。

左手前に見える**「電柱」**が現存する校門前のものだとみれば、変化の全容が把握できる。

現在のグラウンドは、相当な量の山（磐）を切り崩して平らに均したことが分かる。

本校は、川に面し、山に守られる形で建立する。近くにある建造物と言えば、隣接する市民ホームだけ。主たる音は、川のせせらぎと鳥のさえずり、虫の声だ。子供の情操を育む上でも最高の立地と言える。

こうした素晴らしい環境があるのは、教育のために土地を提供した方のおかげでもある。

ショベルカーが校地の北の端まで入ってきた。本校の校地造成の大変なところは、切り崩した山の補強を合わせて行うところにある。さらに言えば、青木川の堤防造成と舗装、川の拡幅、排水路工事も並行している。何と大掛かりなことか。

北側の山の法面のコンクリートの色が、35 年という年月の経過を示している。しかしながら、建築・造成の技術力の高さには驚かされる。流石の酒部建設。

土地の造成が完了し、いよいよ建屋の工事に入ったところ。

右手の黄色のタンクローリーと青色のトラックの位置から察すると、赤枠で示すところに段差があるのが分かる。

この段差が、校庭に続く石畳階段になるのだ。

体育館を先に着手し、並行して教室棟と管理棟の基礎工事に入ったところ。鉄筋校舎だけに、基礎杭も打ち込んだと推察できるが、かなりの難工事だったことだろう。

何せ地盤は、ぐらつかない【常なる磐】なのだから。